



電子メールアドレス : o.fukusi@okinawa-j.jp

**第 48 号**

編集・発行  
社会福祉法人  
沖繩県社会福祉事業団

〒903-0804 那覇市首里石嶺町4丁目373番地1  
TEL 098-884-3173 (代)  
FAX 098-882-5688

ホームページ : <http://www.okinawa-j.jp/>



せみの声

重症心身障害児施設 沖繩療育園  
利用者 照屋 智子

私の名前はみんなみんですと  
 言わんばかりにけたたましく  
 みんみんぜみ  
 また 食いしん坊のせみは  
 しょっちゅう  
 なあーびカチカチさせている  
 (綱)  
 なまげぜみはさんさんと  
 さんさんぜみ  
 失礼なせみは 女性にも男性にも  
 じいじいじいと訴えている  
 じいじいぜみ  
 (イライラ)  
 今年も わじわじーしそうな  
 夏になりそうだ

# 就任にあたって

常務理事兼事務局長

与那城 良 光



四月に常務理事兼事務局長に就任した与那城です。

県においては、当時の生活福祉部で社会福祉課、障害福祉課に在籍していましたが、十二年ぶりに福祉の仕事に携わることになりました。

また、当事業団が入居している沖縄県総合福祉センターの計画に関わってきた経緯があり、今回事業団への派遣ということ、感慨深いものがあり、気持ちを新たにしている所です。

社会福祉をめぐる情勢は、当時とは違い社会福祉基礎構造改革が進展する中で、介護保険法や障害者自立支援法の施行がなされ、利用者の自立と地域生活への円滑な移行を促進するための諸施策が実施されている所であります。

そのような状況の中、私たち事業団は、福祉に対する専門性の高い人材と、これまで長きにわたり培ってきたノウハウを有しており、これらの変化に的確に対応できるように経営基盤の安定を図り、地域福祉の実現に大きく貢献することが求められています。

さて、当事業団も平成十八年四月に沖縄県から十二の社会福祉施設の経営権を譲り受け、完全民営化の事業団としてスタート

トをしました。

民営化に当たっては、文字通りゼロからのスタートでありましたが、役員員一丸となって取り組んだ結果、平成十八年度決算については、一定程度の剰余金を確保し、民営化の初年度としてはまずまずのソフトランディングができたものと思います。

しかしながら、今後社会福祉をめぐる情勢については、大きな好転が望めない中で、当事業団においては、利用者一人ひとりの尊厳を大切に、利用者の立場に立ったサービスの提供と地域移行に向けた事業の強化を図るとともに、職員の意識改革と専門性の向上に努めていかなければなりません。

さらに、老朽化した施設の建て替えや県有地の買い取り、障害者自立支援法への対応も喫緊の大きな課題となっております。

私は、このような「ピンチ」の時こそ「チャンス」に変えるという発想を持ち、社会情勢の変化に果敢に挑戦し、自主自立の経営に向け、普段の努力を傾注し、着実に事業を推進していきたいと思っております。

また、社会福祉事業団が、施設利用者やご家族の皆様への思いや夢に一步でも二歩でも近づけるよう取り組んでいきたいと思っております。

重ねて役員各位の御協力をお願いいたします。

# 平成十九年度 事業計画

## 一 運営方針

当社会福祉事業団は、自主経営の二年目にあたり「利用者本位のサービスの質の向上」「経営基盤の強化と経営の効率化」を基本目標として自立可能な経営体制を整えていく必要があります。

平成十八年四月からの「障害者自立支援法」施行に伴う、障害者(児)施設の新体系への移行や、新介護老人ホームへの移行に伴い大幅な収入減が予想されます。

また介護保険制度においても、「地域密着型サービス」が重要となり、新規事業の検討を進め、収入の安定の確保に努めていかなければなりません。

当事業団としては、社会情勢の変化を踏まえた見直しを進め、更なる経営努力、利用者への適切な福祉サービスの向上に取り組み、「沖縄県社会福祉事業団第三期経営計画」の策定とその推進に努めます。

## 【重点事項】

### 二 事業団第三期経営計画の策定と推進

第三期経営計画を早急に策定し、その実施プログラムを定め、利用者本位のサービスの質の向上と経営基盤の強化を目指し、計画を着実に推進します。

### 三 利用者本位の福祉サービスの充実

ア 施設における福祉サービスの質や職員の接遇態度等に対する評価・要望等について、利用者をはじめ家族等来訪者の意見を積極的に受け止め、利用者のニーズに対応した適切なサービスの確保を図り、利用者本位の健全な施設経営に資するため、投書箱を活用し利用者の満足度の向上に努めます。

### イ 職員倫理綱領の適正な運用

利用者の権利擁護と職員の自己変革の指針となる「沖縄県社会福祉事業団職員倫理綱領」と各施設で制定した「行動基準」の適正運用に努める。

### 四 経営基盤の強化

#### ア 在宅福祉事業の充実

・地域に密着した新規事業の検討

#### イ リスクマネジメントの実践

施設現場における事故等を集計した「事故事例集」「危機管理マニュアル」を活用しつつ、リスクマネジメントの更なる実務に努める。

#### ウ 事務事業の効率化

・グループウェアの構築・共同入札の実施  
既存施設事業の確実な収入の確保  
オ 公益資金の積極的活用

### 五 職員の資質の向上と意識改革

#### ア リスクマネジメント研修

イ 職員研究発表会及びQC活動発表会

#### ウ 職種別の自主研修

#### エ 職場研修

### 六 障害者自立支援法施行に伴う新体系への移行検討

#### ア 施設サービス体系の検討

イ 新サービス給付体系の収支試算  
ウ 地域生活支援事業の検討

### 七 広報活動の推進

ア ホームページ、機関紙による推進

# 全事協九州ブロック会議及びトップセミナー 沖縄開催

平成十九年度全国社会福祉事業団協議会九州ブロック会議及びトップセミナーが平成十九年七月五日～六日の二日間、沖縄パシフィックホテルにて開催されました。

会議は、九州ブロック幹事県の大分県社会福祉事業団の重松常務理事及び開催担当県の呉屋理事長のあいさつで始まり、議題は、全事協理事会の報告と各事業団からの提出議題があり、ブロック会議及び研修の回数を増やす検討や、障害者自立支援法に基づく新体系移行への取り組み等について、活発な議論が行われ、研修会については、時間的に増やす方向で九プロの幹事と全事協の研修委員である北九州市に一任することになりました。

情報交換については、事前に提出された内容について、様々な意見交換が行われました。トップセミナーでは、講師に厚生労働省社会・援護局総務課課長補佐



秋山寛氏を招いて、「社会福祉制度の動向と社会福祉法人への期待」というテーマで講演を



行って頂きました。幅広い内容で、社会福祉を取り巻く現状について資料を交えながらの説明があり、時代の流れの中にある福祉の変革の波も目まぐるしいものがある、ということとをひしひしと

感じました。初日日程の最後は、情報交換会を持ち各事業団の活発な意見交換の場が持てました。

翌日は、晴天でジリジリと焼けつくような暑さの中、万国津梁館（二〇〇〇年沖縄サミット会場）と識名園（琉球王家・世界遺産）の視察を行いました。バスでの移動中は、当事業団の与那城常務がガイドを行い、沖縄事情を詳しく解説し、大好評でありました。

二日間にわたる九州各事業団との交流の中で、貴重な情報交換や今後の事業団の在り方の検討等、ブロック会議だけでなくとどまらず議論が行われ、今後各事業団がより一層の連携を深めるよい機会になりました。（次年度の開催県は、長崎県障害者事業団が担当になります。）



## 施設長リレー エッセー



### 今年六十のおじいさん

知的障害者更生施設 北嶺学園 奥平弘一

ふとしたことから童謡の「船頭さん」が私の琴線に触れ、無性に懐かしくなりCDを求めた。

繰り返し聴いていると五十年前にタイムスリップして当時描いた純粋な人情の世界が脳裏に蘇る。交通手段の発達していない時代に老船頭が手漕ぎの舟で川を渡すのどかな情景がメロディーに乗って私の記憶に刻まれていた。

私の郷里は、海を隔てた小島で、本島への渡しは船頭の操るサバニ（くり舟）が唯一の頼りだった。

童謡には郷愁を誘うものが数多くあるが、「船頭さん」のメロディーは、島の渡し舟の情景がそのまま重なる強烈に懐かしくなる。潮風の薫りに包まれた狭い舟上で、身を寄せ合って交わす島訛と船頭の掛け声と潮騒が奏でるハーモニーの空気がたまらなく懐かしい。

問題は、歌詞の中の「今年六十のおじいさん」に懐かしさの中にも戸惑いと衝撃を感じることである。歌の中の船頭さんは、「六十歳の高齢」ながら矍鑠としていて、櫓をしながら舟を操る様は自然の風景に見事にとけ込んで正に名画を彷彿させる。

五十年前、六十歳は紛れもなく老人の部類に属し、その年で元気に働く船頭さんの姿は手本として広く童謡に歌われていたのである。あれから半世紀経って、気がつくとう自分が船頭さんと同じ「今年六十」になっている。

しかし、船頭さんのように「年はとつても元気なおじいさん」と視られることにはいささか抵抗がある。精神的にまだ若いつもりであるため自分が「老人」だといわれても俄に認めるわけにはいかないし、敬愛されるような功績もその域に到達していない実感も全く無い。

ただ、体力は多少衰え、メタボリックシンドロームの数値要件が気になるが、今のところ然したる危機感を持っていない。

現代は、五十年前とは比較にならないほど様々な面で状況は変わり、寿命も延びて超高齢社会となっているので、もはや社会制度的にも六十歳を老人としては扱っていない。

そこで、時世も変わったことから「今年六十のおじいさん」をせめて後期高齢の始まりまで延ばし「今年七十五のおじいさん」とするくらいが当世にふさわしいと思うのである。

一方で、この歌の持つ牧歌的な旋律と歌詞の響きは一体となって心地よく郷愁を誘い、郷土愛の拠り所となっているのでいつまでもこのまま残しておきたいという思いも強い。

矛盾する勝手なことばかり云っているが、時宜を得て「船頭さん」に再会し、こみ上げてくる望郷の念と、同時に、速く過ぎ去った時の流れにより、船頭さんのような「成熟した老人」まで到らず、「おじいさん」を当分は先送りしたいとの感情に支配されているのも確かである。

時を経た現在、郷里の島と本島は橋で結ばれて車で自由に往来できるようになり、昔懐かしい「渡し舟」の実景はもう姿を消した。

鳥の子どもたちが大人になったときに「船頭さん」を聴いて、古里へのノスタルジーを覚えたり船頭さんの年令が気になったりするとはあるのだろうか。

（昔を偲んで他愛ないことに心を砕く老婆心こそ老人の証だと若者に揶揄されそうだが。）

いやがうえにもリタイアへのカウントダウンは進み、六十歳を現実に実感するときに刻一刻と迫っている。

同年生の千昌夫が「北国の春」で「あふるさとへ帰ろうかな」と歌う一節がこの頃心にしみてくるのは、すなおに定年（還暦）を受け入れ、セカンドステージのシナリオを一考するように送られているサインかもしれない。

# 平成十九年度 新規事業 スタート!

## 名護厚生園指定居宅介護支援事業所

介護支援専門員 屋 良 利 勝



今年五月に産声をあげた名護厚生園指定居宅介護支援事業所は、現在養護施設の利用者様(要介護1~5)を中心にケアプランを作成しながら他サービス事業所との連絡調整を行っています。

支援事業所で心がけているのは、利用者様の声を聞くということです。何をどうしたいのかを確認し、表現が上手くできない方は、養護相談員や他職員と共に考え、その人本人が思っていることに少しでも近づけるサービスが提供出来る様にと職員一丸となって頑張っています。

## 名護厚生園指定訪問介護事業所

サービス提供責任者 萩 道 盛 路



名護厚生園指定訪問介護事業所が開設されて三ヶ月余り、日々の業務に追われながらもスタッフ一丸となり頑張っています。

入所施設利用者様へのサービス提供がありますが、生活されている介護保険利用者へのサービス提供に少しでも近づけるよう、居宅をお客様の自宅ととらえ、お客様の自己選択・自己決定を尊重し、その人らしい毎日が送れるよう、サービスの提供に努めています。  
まだ若い事業所ではありますが、地域の方々に選ばれる事業所になるよう、一歩ずつ確実に歩んでいきたいと思えます。

## 宮古厚生園指定居宅介護支援事業所

介護支援専門員 緑 川 幸 子



養護老人ホームに入所されている方も介護保険の在宅サービスを利用できる事になり、どのようなサービスを生活にとりいれられるのか他の厚生園(名護、具志川、八重山)の担当者と情報交換を行い試行錯誤しながら三ヶ月が過ぎました。

宮古地区は、多数の介護保険サービス事業所がありますが、地域の方々に宮古厚生園に居宅介護支援事業所、訪問介護事業所が開所した事を広く知って頂き、より多くの方にサービスを利用してもらえる様に努力して参ります。

## 宮古厚生園指定訪問介護事業所

サービス提供責任者 高 岡 大 三 郎



当事業所は、現在常勤訪問介護員三名、登録ヘルパー四名の体制で、宮古厚生園養護老人ホーム入所者の内、要介護認定を受けている二十四名の方に、入浴介助を中心とした訪問介護サービスを提供しています。

今後は、養護利用者へのサービスを充実すると共に、地域へ事業を展開していきます。「応援します!あなたの笑顔」を理念に、確かな技術と思いやりの心で、信頼される事業所を目指しています。

## 八重山厚生園指定居宅介護支援事業所

介護支援専門員 仲 里 光 江



養護老人ホームの制度が大幅に変わり介護認定を受けている利用者が介護保険サービスを利用できるようになり当園でも平成十九年五月一日より居宅介護支援事業所がスタートしました。サービスを利用したい本人や家族に代わり色々な手続きや他の事業所との調整を行っています。現在養護利用者が十三名、在宅利用者三名、介護予防の方一名が当事業所を利用されています。まだまだ利用者数も少ないですが、これからは、在宅にももっと力を入れ地域に親しまれる事業所になるよう頑張りたいと思います。

今年五月一日に開所したばかりの居宅介護支援事業所、一人でがんばっています。が、日々「勉強」の毎日です。分からないことがあれば、教わる相手がいらないのです。しかし以前から「在宅の仕事がしたい!」と思っていた私にとって、居宅への異動はありがたい話でした。(その分、不安も大きかったです。：)。六年前私自身、末期癌だった祖母の願いもあり、在宅で祖母の終末ケアをした経験をいかし、在宅で生活している方々やご家族の役に立てる介護支援専門員として働きたいと思っていました。まだまだ担当している利用者は少なく、主に養護老人ホームに入所されている方々ですが、施設に入所されていても、その人らしい、いい人生を送れるように一緒に考えていけたらと思っています。最後に「担当が宮里さんでよかったです」と思われる介護支援専門員であるために、日々努力し、がんばります。

## 八重山厚生園指定訪問介護事業所

サービス提供責任者 砥 板 整 子

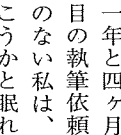


当園では、平成十九年五月一日から、訪問介護事業所もスタートし養護利用者の方のケアプランを中心に訪問介護が、必要となれば毎日の入浴などのサービスを提供しております。

現在身体介護の必要な養護利用者が十三名と生活援助の必要な在宅利用者が五名、介護予防の方一名が当事業所を利用されています。中には、今までの生活パターンと違う為、毎日の入浴を拒否されたりと、まだまだ理解されていない利用者もいますが時間をかけ利用者喜んで貰えるサービスに努めたいと思えます。

## 具志川厚生園指定居宅介護支援事業所

介護支援専門員 宮 里 美 奈 子



事業団に就職して、一年と四ヶ月。三日目の執筆依頼で文才のない私は、何を書こうかと眠れぬ日々でした。

今年五月一日に開所したばかりの居宅介護支援事業所、一人でがんばっています。が、日々「勉強」の毎日です。分からないことがあれば、教わる相手がいらないのです。しかし以前から「在宅の仕事がしたい!」と思っていた私にとって、居宅への異動はありがたい話でした。(その分、不安も大きかったです。：)。六年前私自身、末期癌だった祖母の願いもあり、在宅で祖母の終末ケアをした経験をいかし、在宅で生活している方々やご家族の役に立てる介護支援専門員として働きたいと思っていました。まだまだ担当している利用者は少なく、主に養護老人ホームに入所されている方々ですが、施設に入所されていても、その人らしい、いい人生を送れるように一緒に考えていけたらと思っています。最後に「担当が宮里さんでよかったです」と思われる介護支援専門員であるために、日々努力し、がんばります。



※平成十九年九月一日より具志川厚生園指定訪問介護事業所もスタートしました。

# 平成十九年度 ニューフェイスの声



重症心身障害児施設 沖繩療育園  
言語聴覚士 與那原久美子

今年の四月から沖繩療育園で言語聴覚士として勤めています。

ベテランSTの後任という事で自分に務まるかまだまだ不安があります。これまで重症児(者)の臨床の経験が少なく、特に最初の頃は利用者も私も緊張していて相手の反応の区別もよくわからないような状態でしたが、最近になってようやく表情の変化や要求などがいろいろ見られるようになってきました。

これからも職員や利用者の方に教えてもらいながらやっていきたいと思います。どうぞ宜しくお願いいたします。



重症心身障害児施設 沖繩療育園  
看護師 真栄里 進

今年の四月から、沖繩療育園で看護師として勤務しています。

以前勤めていた職場環境、業務内容とは全く異なり重症児の看護経験がなく、最初の頃は利用者の疾患の理解もなく、殆どが初めての経験でした。

毎日緊張しながらの勤務で先輩看護師さんに、業務手順や利用者の特徴・看護のポイント等を詳しく説明を受けたり、リラクセスできる様に声掛けしてもらいました。おかげで最近からは緊張も和らぎ、利用者の変化や態度、表情・仕草等、少しは理解できる様になってきました。これからも、先輩看護師さんに学び、利用者

が安心して快適に生活できるように努力したい。今後も宜しくお願いします。



知的障害者更生施設 北嶺学園  
生活支援員 中村礼仁郎

何が不安かも分からないくらい不安を抱えていた四月から四ヶ月が経ち、少しずつ気持ちに余裕も生まれ、この職場で働くことの喜びを感じられるようになってきました。障害者を取り巻く環境や制度が変化していく中であっても、利用者の皆さんにとっての幸せとは何かという変ることのない命題を胸にとめ、少しでも多くの楽しみや喜びを利用者の皆さんや職員の皆さんと共有するために自分が出れることは何かということを考え頑張っていきたいと思っています。



身体障害者療護施設 都屋の里  
介護員 知花 実希

三月に専門学校を卒業し、四月に都屋の里の介護員に仲間入りした知花実希です。利用者さんのQOL向上を目標に、学校や研修で学んだ知識や技術を活かし、どのようにアプローチしていくのかと奮闘している毎日です。

人間を相手にする仕事なだけに、やはり一筋縄に物事が進むことは少なく、まだまだ未熟者である自分がかかりする事もしばしば。しかしそんな私に職員の皆さん、利用者の皆さんは温かい励まし、笑顔を送って下さいます。これらを励みに、知識・技術をさらに磨き、目標に向

かってモチベーションを高め頑張っていきたいと思います。



養護・特養老人ホーム 名護厚生園  
出納職員 中本 信次

このたび、沖繩県社会福祉事業団職員として採用され、六月より名護厚生園の出納職員として職務に従事しています。

私と沖繩県社会福祉事業団との出会いは昨年の四月のことです。以前勤めていた会計事務所からの出向で、四月から六月までの三ヶ月間という短い期間ではありますが、事務局で出納業務のお手伝いをさせていただきました。県内最大規模の社会福祉法人での業務は、私自身においても多くのことを学び得た、とても充実した三ヶ月間でした。

これからも当時の心構えを忘れず初心に帰り、事業団の発展、自己の向上に努めていきたいと思います。



養護・特養老人ホーム 具志川厚生園  
生活相談員兼 介護支援専門員 青山留美子

「大阪」の印象は? せっかちたこ焼き、豹柄パンチパーマのおばちゃんその他諸々。そんな大阪で「のほほん」と生まれ育った私ですが、もとのほほんとして生活したくて愛知県を経由して今年の四月、ついに沖繩に辿り着きました。

海を眺めてのんびり生きていくぞと思っていたのですが、夢は儚く消え失せました。早口なウチナーグチ、同音異義語なウチナーグチ、波の

ように絶え間なく引いては寄せる仕事仕事仕事。毎日が目まぐるしく過ぎていきます。少しずつですが、心に余裕をもって仕事に遊びに沖繩を満喫していきたいです。



養護・特養老人ホーム 宮古厚生園  
介護員 大嶺 恵子

宮古厚生園で勤めて五年目になります。今年の四月で四十才になりました。

私は宮古厚生園の上司、同僚、介護職が心から好きです。この職場で仕事が出来、記念の節目の年に採用して頂き本当に感謝の気持ちでいっぱいです。介護職はまだ未熟で迷惑をかける事も多々あると思いますが、日々「この職場で良かった」と感謝しながら過ごしています。利用者にも「宮古厚生園に居て良かった」と心から思ってもらえるような仕事をしたいと思っています。楽しい、笑顔のたえない職場宮古厚生園。頑張りますのでよろしくお祈りします。



養護・特養老人ホーム 八重山厚生園  
介護員 崎原 忍

以前、那覇市内の特別養護老人ホームで十三年間介護職に携わって来ましたが、今年四月に地元である八重山厚生園に新採用となり早四ヶ月、以前の施設とは環境や利用者、職員が違うため不安でしたが利用者や職員に恵まれますぐに馴染む事が出来毎日楽しく働いています。

これまでの介護経験を生かして職員同士のチームワークを大切に、サービス向上に努め利用者に満足していただける様に頑張ります。また、笑顔と優しさを心がけ園や利用者にとって新しい風を吹き込める人材に成るよう努力していきますので宜しくお願いします。

事務局 通信

平成十八年度人事異動

(一)内は前職場など

○異動(四月一日)

事務局 常務理事兼事務局長・与那城良光(県土木建築部土木企画統括監)

沖繩療育園 副園長兼庶務課長新川優(八重山厚生園) 介護課長・新垣貞美(昇任) 上原邦子(事務局) 生活指導員・上原将弘(よみたん救護園) 看護師・金武明義(具志川厚生園) 介護員・白保郁子(具志川厚生園) 介護員・平田静佳(都屋の里) 介護員・上地たつ子(具志川厚生園) 介護員・上地博樹(都屋の里)

北嶺学園 生活支援員・宮城貴子(沖繩療育園) 生活支援員・小橋川博康(うるま婦人寮) 都屋の里 園長・小渡利枝子(うるま婦人寮) 生活支援員・松田節夫(具志川厚生園) 介護員・又吉篤志(具志川厚生園) 介護員・義間道幸(沖繩療育園)

よみたん救護園 園長・大湾朝信(都屋の里) 生活指導員・新城綾子(北嶺学園) 介護員・横田久夫(名護厚生園) 介護員・長嶺輝也(沖繩療育園)

いしみな救護園 介護員・座安正勝(よみたん救護園) うるま婦人寮 園長・仲里光義(よみたん救護園) 生活指導員・佐久本里子(都屋の里)

具志川厚生園 生活相談員・新里健(職種変更) いしみな救護園 介護支援専門員・宮里美奈子(職種変更) 看護師・崎浜朝枝(沖繩療育園) 介護員・上原剛(沖繩療育園) 介護員・照屋智(よみたん救護園) 介護員・安慶名篤志(名護厚生園)

八重山厚生園 副園長兼庶務課長・根間武男(沖繩療育園) 介護支援専門員・仲里光江(職種変更)

新採用職員紹介

沖繩療育園

(薬剤師) 宮里淳 (看護師) 職名美香・真栄里進・田仲利恵美・玉城清美・浦崎絹恵・上原司・中村里佳・竹下史彦・上地輝彦・真喜志理子(言語聴覚士) 與那原久美子(理学療法士) 大城知佳

北嶺学園

(生活支援員) 中村礼次郎・仲栄真麻美 都屋の里 (介護員) 知花実希・山内晃・野原志乃

(事務員) 中本信次(介護支援専門員) 屋良利勝 名護厚生園 (介護員) 宮城慶太・荻道盛路・新城京子

具志川厚生園 (事務員) 和宇慶るみ子(生活相談員) 知念愛(生活相談員兼介護支援専門員) 青山留美子(介護員) 石川まさえ・砂川恵美・宮里健太

宮古厚生園 (介護支援専門員) 緑川幸子(介護員) 大嶺恵子 八重山厚生園 (看護師) 藤原折恵(介護員) 崎原忍

平成十九年度機関誌刊行委員

編集委員

委員長 長 竹田 陽一(事務局)

副委員長 平良 里子(事務局)

編集委員 糸数 志穂(沖繩療育園)

仲松 吉晴(よみたん救護園)

上間由美子(うるま婦人寮)

青山留美子(具志川厚生園)

宇座 正市(湊水学園)

砂川 直美(あけぼの学園)

小橋川博康(北嶺学園)

仲地 夏海(都屋の里)

町田 宗広(いしみな救護園)

与儀 朗子(名護厚生園)

伊禮 勝枝(宮古厚生園)

古見 嘉浩(八重山厚生園)

平成18年度 事業報告及び決算報告

平成十九年五月の理事会で、平成十八年度の事業及び決算報告等が認定されました。

一、総括

平成十八年四月から、十二の県立社会福祉施設の経営移譲を受け、新たなスタートを切ることになりました。

民営化に当たっては、運転資金ゼロからのスタートでありましたが、経営基盤の強化に努めるべく安定経営の効率化に取り組みました。

しかしながら、当事業団には、なお土地の有償譲渡、老朽施設の建て替え等早急に解決すべき諸課題があり、現在検討中の「経営計画」を策定し推進していく必要があります。

二、主な実施事業

① 事業団経営計画の見直しと新たな経営計画の検討

平成十六年に策定した経営計画を見直し、新たに「第三期経営計画」の策定に向け取り組むと共に、新規事業への対応及び老人施設職員の介護体制比率等の改善を図るため、平成十九年度から、職員を五十五名増員し、五百十名体制とすることを決定しました。

② 組織体制の強化

ア 各施設の施設長を、事務局兼務発令の経営対策監とし、経営陣の一員として位置づけ、法人全体の経営管理に係わる体制とし、新規事業や経営計画の策定、予算等を検討した。

イ 給与制度の見直し

自主・自立経営が可能となる新給与制度を実施した。

ウ 就業規則の見直し

県準則の規則を改め、労基法に沿った就業規則とした。

③ 地域に密着した新規事業の展開

各施設において、地域の拠点施設として、在宅の福祉ニーズに適切に対応することにより、サービスの連携が保たれ、施設の経営基盤が確保され、相乗効果が期待されることから、新たな在宅事業を検討した。

老人関係については、各厚生園に指定居宅介護支援事業所と指定訪問介護事業所の開設。障害関係については、都屋の里に、看護師を一名増員し、短期入所を受け入れる体制とした。

\*「決算報告」は七頁参照

~ありがとう ございました~



社会福祉法人 沖縄県共同募金会の平成18年度共同募金配分助成金により車輛を購入しました。



ダイハツ工業(株)様の創業百周年を記念して福祉車輛が都屋の里へ寄贈されました。

事業活動収支計算書

(自)平成18年4月1日 (至)平成19年3月31日

第3号様式

(単位:円)

Table with 4 columns: 勘定科目, 本年度決算, 前年度決算, 増減. Rows include 収入 (介護保険収入, 自立支援費等収入, etc.) and 支出 (人件費支出, 事務費支出, etc.).

資金収支計算書

(自)平成18年4月1日 (至)平成19年3月31日

第1号様式

(単位:円)

Table with 4 columns: 勘定科目, 予算, 決算, 差異. Rows include 収入 (介護保険収入, 自立支援費等収入, etc.) and 支出 (人件費支出, 事務費支出, etc.).

貸借対照表

平成19年3月31日現在

第5号様式

(単位:円)

Table with 4 columns: 科目, 当年度末, 前年度末, 増減. Divided into 資産の部 (流動資産, 固定資産) and 負債の部 (流動負債, 固定負債).

財産目録

平成19年3月31日現在

第6号様式

(単位:円)

Table with 2 columns: 資産・負債の内訳, 金額. Lists assets like 現金, 預金, 不動産 and liabilities like 未払金, 借入金.

脚注 1. 減価償却費の累計額 253,785,299円
2. 徴収不能引当金の額 0円
3. 移行時特別積立金の不足額 0円

施設だよ

宮古地区障がい者スポーツ大会

知的障害者更生施設 あげほの学園

生活支援員 砂川直美

「第一回宮古地区障がい者スポーツ大会」が五月二十七日(日)、宮古島市総合陸上競技場で行われました。知的・身体・精神の三障害の方々が一堂に集い、県内でも初の合同大会で関係機関、ボランティアを含めた総勢約七百人が青空の下で交流を深めました。

大会は沖縄県・宮古島市・多良間村を始め、宮古地区身体障害者福祉協会等の九つの組織・団体が共催し、大会長(池間太郎)から「ハンディを持つ方々がこのスポーツ大会とおして輪を広げ、交流を図ってほしい」との挨拶で各競技が始まりました。

あげほの学園チームは、トラック競技



五十メートル 五メートル トラック競技 五メートル 慶田盛正人が二位の成績を取りました。初めて参加するアキユラシー競技等、各競技種目に十八名の利用者がエントリーして熱



戦が展開された。その中でも、あげほの選手団が目立ったのは、午後からの競技で、「二〇〇M・与那覇和則」「四〇〇M・新里安吉」「八〇〇M・下地利和」らの選手

は他の施設の選手を寄せ付けず一位でゴールに飛び込んだ。そして今大会最後の種目一、五〇〇M競技では、練習量豊富な平良昌照さんが独特の走りです倒的な強さを見せ優勝し会場をわかせた。総合でも他の施設を寄せ付けず大差で圧勝した。

走り幅跳びで優勝した外間和夫さんからは、来年の大会にも、「一生懸命練習して頑張りたい。そして一位になりたい。」と額に大粒の汗を浮かべながら笑顔で話していました。

この日は優勝トロフィーを飾り、個々の賞状をかかげみんなの健闘、頑張りを称えあいました。

ビーチパーティー

身体障害者療護施設 都屋の里

利用者 慶納兼子

今年の園行事の海水浴は、例年使っているタイガービーチが改築のため使用出来ず、近くの残波ビーチでのビーチパーティーとなりました。

七月十一日、水曜日十時半、梅雨明け後のさわやかな晴天の下、普通車、大型リフトバス、そして、よみたん救護園からマイクロバスを借りて、職員十六名、実習生四名、利用者三十三名に加え、職員OBのボランティア六名、総勢五十九名、目的地である残波ビーチへ出発しました。早い時間から、ボランティアの職員OBの皆さんが応援に駆けつけて来て下さって、とても嬉しく思いました。

利用者は、職員OBとの久しぶりの対面で話が尽きない様子で、あっちこっち笑いの渦でいっぱいでした。

利用者の何組かは、つかの間の夏のバカンスを家族で楽しそうにしている光景も見られました。利用者の中には、海辺のアダンの風景に故郷を思い出して、涙ぐんでいる人もいました。

潮のかおりの中での昼食が、思いもかけずバーベキューだったので、ほとんどの利用者がおいしそうにいたっていました。

厨房の方達がきばきと、昼食の準備



を観光客らしき人達がいたり、マリンスポーツを楽しんでいる人もいました。また、日はテレビでしか見

られないビキニの若い女性のタトゥー(入れ墨)を生で見ることが出来て、とても不思議な気持ちでした。

一時半からスイカ割りですが、和気あいあいと始まりました。利用者の中には、暑い砂地の上的スイカ割りを連想していましたが、涼しいモクマオウの木陰でのスイカ割りで、全員参加出来てとても喜んでいました。屋外で食べるスイカは、とてもおいしかったです。

帰りのバスの中でも、興奮さめやらぬ気持ちで、はしゃいでいる様子でした。

無事、無事故で園に帰りました。一つの行事を成功させるには、多くの皆さんの力が、必要だという事が、つくづく分かりました。

楽しいビーチパーティーでした。ありがとうございました。

